

青嶺 Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

令和六年度入学式が 挙行されました

昨日、多くの来賓をお招きして令和六年度入学式を挙行しました。
黒川・波多津の両小学校から、計二九名の新生を迎え、全校生徒九九名で新しいスタートを切りました。

式辞では、今年度から小中で一緒に取り組む「対話」を通して、誰もが安心して過ごし、互いを高め合える学校を目指そうという願いを話しました。
すつと伸びた背筋、真剣で真つすぐなまなざしで一生懸命に話を聞いている新生の姿に、中学生としての自覚を強く感じました。



「鶴田育友会会長より」

あつという間に過ぎていく三年間を充実したものとするように時間管理を行い「昨日より今日」と少しづつ自分を成長させて下さい。また苦しいこと、大変なことから逃げずに頑張ったら、その経験が成長への大きな栄養になる。一瞬一瞬を大切にし、可能性を大きく広げていって下さい。
卒業生の保護者として、心のこもったあたたかいメッセージをいただきました。

「歓迎の言葉 生徒会副会長 伊崎 優太さんより」

中学校は、皆さんが思っている以上に楽しく明るくて活気のある場所です。また立礼挨拶、自問掃除等の当り前のことを当り前に行う「青嶺ブランド」を意識しましょう。文化学習発表会ではみんなで協力し良い劇をつくり上げて下さい。共に素晴らしい青嶺中学校を築いていきましょう。

後輩を安心させる、先輩らしい優しさと強さを感じられた素晴らしい歓迎の言葉でした。

「誓いの言葉 浦田 快星さんより」

それぞれの小学校で、勉強はもろろん、仲間と共になにかをやりとげることができ、将来生き生きと生きていくための基本となることを学んできました。

今日から中学生として、この伝統ある青嶺中学校の校訓である「学ぶ心」「鍛える心」「磨く心」を常に意識し、学習や行事に取り組んでいきます。

どんなことにも諦めず挑戦し続けられるように努力し、一日も早く立派な青嶺中学校の一員になれるようがんばります。

大きな声ではつきりと言葉を発する堂々とした姿に、新入生全体のパワーを感じました。

昨年感じましたが、迎える側も、迎えられる側もそれぞれの立場の人たち全員が一生懸命に、心を尽くして準備したことが伺える、心温まる式になりました。

ひとつの取組を自分事として主体的に考え行動する場面が多く見られる青嶺中学校の伝統は脈々と息づいています。本当に素晴らしい生徒たちです。また今日から新たなスタートです。

Pick
Up!!

新学期が始まり、入学式を終え、生活面でも人間関係を築く生徒たちにとって変化の大きい時期です。

新しく赴任した職員にも生徒たちは興味津々でいろいろ知りたいようです。

「長野先生の車の色がかわい」「みずき先生はバドミントンが上手」「もとき先生はアニメ好き」「松尾先生の声がかわい」「ひらき先生のバレーはすごい」などなど、相手に興味関心をもち、素直に関係を築こうとする生徒たちは、知らず知らずのうちに、職員に安心感と元気を与えています。

自然に声をかけて会話をすると、本当に何気ないやりとりが見られますが、大人も子どもも、自分が周囲から「受け入れられている」実感があると感じます。

私自身も生徒たちから話しかけられると本当に嬉しんです。変化を前向きに捉え元気を与え合うこの一週間でした。

過去の自分からの贈物

昨年ある集まりで、佐世保で三年間担任していた生徒の叔母という方から話しかけられました。人のつながりの不思議さと、声をかけてくださったことへの感謝の気持ちを持ちました。

そういえば誰一人知り合いがないと覚悟してきた青嶺中学校でも、以前の同僚から「今度、田中先生がいくからよろしく」という連絡があったと聞きました。赴任した先で以前一緒に働いた同僚や、担任や顧問をした生徒の保護者さんなどから様々な形で話が伝わっていて、暖かく迎え入れてくださったことが数多くありました。

その時々の良い思い出を共有できたり、感謝の気持ちを感じてもらったり、そして時がたつた後でも気にかけてもらったり…かつての自分のやってきたことが今現在の自分を助けてくれていることを実感します。

その一方でいやな思いをした生徒や保護者さん、同僚もたくさんいると思います。ですから、感謝の気持ちを持つことと同時に、自分の行動を振り返って、同じ失敗は繰り返さない謙虚さを持ち続けなければならないと強く感じます。今、目の前の仕事を精一杯取り組み、目の前の人たちに誠実に接する、そのことが結果的には未来の自分を助けてくれると思います。

皆さんは今の行いや発言、取り組みが未来の自分から感謝されると思いますか？一度考えてみましょう。